



東北 復興日記

まだまだ

▶▶▶ 240



建築家・スレート千軒講
阿部正さん

宮城県石巻市雄勝では明治初期
中期、近代化に伴って需要を見
いだされた粘板岩の採掘が盛ん
になりました。これが近隣村に拡大
して多くの葺き職人を輩出。国内
屈指のスレート産業へと発展しま
した。

天然スレートを知る人はあまり
多くないでしょう。しかし「東京
駅の屋根に葺かれていたるもの」と
言われれば、想像できるのではな
いでしょうか。多くの人の印象に
残り、東京・丸の内の風景を担っ
てきた素材のひとつとも言えま
す。

私たちにはもうひとつ大切な風
景があります。宮城県北東部から

家畜が家族同様である農村で
は、主屋から馬屋うまやにいたるまでス
レート葺きに変わり、漁村では塩
害対策として外壁もスレートに変
わり、いずれも趣向を凝らした意
匠で職人たちが腕を競いました。
この屋根の下の空間は、養蚕な
どの生業を安定して営むことを可
能にしました。暮らして豊かさを

土着の風景を問う

岩手県南東部に分布する天然スレ
ートの民家群です。水稲地帯の屋
敷林に囲まれた玄くろい石屋根がおり
なす屋敷構えや、リアス海岸のわ
ずかな浜辺に魚鱗形ぎょりんの玄い石屋根

もたらしたスレート民家は、この
地方の真正な風景ですが、東日本
大震災の被害や老朽化、離農・離
漁などで減少しています。

が密集する風景は唯一無二のもの
でしょう。こうした風景がつくら
れた背景には、この地方で粘板岩
(スレート)が産出されることに
よります。

五十年後も千軒位のスレート民
家を残すために、民家所有者や職
人らと「スレート千軒講」という
ネットワークを立ち上げ、歴史・
文化的価値の啓発や、技術の継承
に取り組んでいます。昨年は、国
指定石盤葺技能者の佐々木信平さ
んらとスレート葺きの実演会＝写

真＝や所有者との相談・勉強会を
開催し、土着の風景を再考する機
会を持ちました。早速、陸前高田
市下矢作地区では、まちづくり計
画に活用する動きもあり、手応え
を感じているところです。



※この連載は、東京のNP
O法人JKSKと、被災地の
女性たちが協力して復興に取
り組む「結結プロジェクト」の
協力を得て、掲載しています。